

## 選考委員会における委員のコメント

立教新座中学校・高等学校

「校外研修旅行を通して学習する著作権」

- 座学ではなく自ら情報の発信者となり著作権の問題を考えるという発想はとても良い。時間の制約からか、作品の作成に力がそそがれ、著作権について自らが考えるというよりも、先生から与えられた内容を遵守する内容に見受けられ、少し物足りなさを感じた。
- 座学だけでなく、自ら情報を発信する立場になることで、学びの深まりにつながるものとする。「著作権に対して配慮している様子が伺えた」とあるので、具体的にどんな様子が見られたのか記述してほしい。同様に、生徒が無意識に画像を加工したり、複製権や同一性保持権などに触れた具体的な例や、侵害に対して教師がどのように指導をして、どのように改善されたのか等の実践も知りたいと感じた。
- テーマはよいのだが、教師主導で、著作権のことを生徒に語らせていないのが残念である。
- 研修旅行と情報科での調べ学習とを関連させる実践は珍しいものではないが、本実践で著作権学習と学校行事を関連させたことはユニークで、他の参考となる。旅行のしおり作りで著作権に配慮した制作活動を課すに至るまでに、座学と実習をバランスよく配置している。
- 情報Bの授業を実践する中で、著作権教育をうまく位置づけており、著作権教育とともに、情報機器を活用しながらその情報を適切に整理していることを評価する。また、スライド製作をしながら、自然に著作権教育について配慮する取り組みになっている。著作権について、具体的にどう指導しているか、もう少しわかる資料があるとよい。
- 生徒が楽しみにしており、かつ身近な修学旅行に関するリーフレットや旅行記の作成を通して、著作物を利用する過程及び自分の著作権が発生する過程で著作権にふれる授業構成はよくできている。ただ、机間指導により著作者の権利を侵害する行為を見たら指導している点が気になった。生徒にあえて体験させ、生徒が自分で気がつくような流れにしてほしかった（そのためには、時間設定に余裕が必要になるが）。
- 座学と実践を取り入れることにより、より深く著作権を身近に感じることができ、理解することができていることが分かる。リーフレット制作をとおして、「著作権を守ることがそんなに重要だとは知らなかった」という生徒の感想は、現在の生徒の著作権の意識や理解度を知ることができ興味深かった。授業時間の構成によるが、著作物の使用許諾の実施まで踏み込んでも良いのではないかと。また、他の教科との連携を図っていくこ

とも、著作権の授業時間を効率よく運営していくこととなる。

- 修学旅行をテーマに、事前、事後という文章の作成に対して、著作権を意識しながらの教育実践を具体的、体系的に実践しているのがたいへんわかりやすい。生徒の感想で、著作権について、今まで気にしたことがなかったが、今回、授業で実際に著作権について考えることができ、貴重な体験ができたという率直な意見は大事であると思う。
- 作品製作の学習と共に著作権についてしっかり扱っている点が評価できる。著作権について、生徒が考えるというより、押さえるべきところを教師の一方的な指導で終わっているのが残念である。ただ、製作の段階で、生徒が著作権に配慮して作品づくりを行っているなど成果が見られているのは評価できる。

以上